



常勝のワンチームを作る8つのステップ vol.29

さて、福澤諭吉は「盲目社会に対するは獣勇なかるべからず」と語っているそうです。「将来が見通しづらい、何が起きるか分からない一寸先は闇の時代には、獣の勇氣を持って前に進みなさい」という教えだと思えます。

獣は、何も考えていません。何も考えていないからこそ、迷いが生じることもない。ところが人間は、頭を使って考えます。でも、考えれば考えるほどに迷いが生じる。また、ひとたび迷えば、踏み出す一歩が出にくくなります。そうして行動することをやめてしまえば結果を得ることはできませんし、生きた証しも生まれません。実は、行動しないことこそが、最大のリスクなのです。

獣には「時の概念」がありません。獣は「いま」をひたすら生きています。一方で人間は「昨日は飲

み過ぎてしまった」などと過去のことを憂えて、「明日は株価がどうなっているだろうか」などと未来を不安に感じながら生きています。つまり、人間の不安や後悔は、「時の概念」が作り出しているわけです。

しかし「時の概念」に関わる能力があるからこそ、人間だけが未来を想像することが可能であり、夢や希望に向かって動くことができるのも事実です。ここに人間の面白さがあります。

このため「時の概念」を使って未来に夢を描き、その夢に向かって「いま」を生きることができれば、その人の生き方は鮮やかさを増します。そして「いま」を生きるには、とにかく必死に、がむしゃらに生きることが大切です。しかし、それには方向性が必要となり、ここで「時の概念」を使います。

人間が活着ているのは現在という点であり、過去

セブンイレブンの「獣勇」

文 林 敏之

text by Toshiyuki Hayashi



も未来も現在を起点にした記憶やイメージに過ぎません。夢を描き、そこに向かう未来をイメージすることで、自分が目指すべき方向性を決めている人がほとんどだと思います。

こうして過去の記憶を基準に方向性を決めてしまうと、新たな夢を抱いたとしても、ネガティブな方向性で判断しがちです。するとチャレンジもしませんし、成長することもできません。現状維持ができればまだしも、衰退するしかありません。

1973年、日本初のコンビニエンスストア事業を展開する「セブンイレブン・ジャパン」を立ち上げ

た鈴木敏文氏は、周囲の「アメリカに倣った店舗形態は時期尚早だ」という声を前に、「だからこそやるのだ」と言い放ったそうです。その当時に隆盛を誇っていたイトーヨーカドーのような大規模店舗を、あえて否定して行った決断でした。

過去の記憶をもとに「どうすれば失敗しないか」を考えると、「そもそもチャレンジしないほうが良い」と判断しがちです。過去の記憶ではなく、未来の夢を基準にして、「夢を達成するにはどうすれば良いのか」「そのために足りない部分は何なのか」を考える必要があるのです。

Profile

1960年徳島生まれ。13歳よりラグビーを始める。日本代表を13年間務め、神戸製鋼では7連覇を達成。同志社、神戸製鋼、日本代表、第1回RWCではキャプテンを務めた。オックスフォードブルー、歴代ベスト15に入る。引退後はラグビーで体験した湧き上がる感動を伝えようと、教育の道を志し、感性教育をテーマに活動している。2006年にNPO法人ヒーローズ設立、理事長就任。



『常勝のワンチームを作る 8つのステップ』
林敏之
発行：白秋社
定価：1870円（税込）